

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	消化管神経内分泌腫瘍における予後予測因子の確立と新規治療法への基盤形成
	研究目的	世界的に増加傾向にある神経内分泌腫瘍ですが、現行の評価基準のみではこの腫瘍の悪性度を完全には把握することができません。そこで既に採取された病理検体（既存試料）を用いた組織学的解析により、神経内分泌腫瘍の新たな予後予測因子の確立、浸潤・転移機構の解明、新規治療法の基盤を形成する事が本研究の目的となります。 予後予測因子の確立は社会的に低コストで効率的な検診システムの構築に貢献し、浸潤・転移機構の解明および新規治療法の基盤形成は新たな治療戦略の開発に繋がりますので、本研究の学術的ならびに社会的意義は大きいと考えています。
	研究期間	2015年9月10日から2018年3月31日
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	大久保 陽一郎
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	病理診断科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	他施設との共同研究や海外への試料・情報提供は2017年5月の時点では具体化していません。今後、試料・情報を提供する事になった場合、改めて必要資料を提出し、承認が得られるまで提供致しません。